

2019 (R元) 年度 決算状況

単位：百万円

項 目		2018年度決算				2019年度決算見込				
		企業団 (計)	南奈良総合 医療センター	吉野病院	五條病院	企業団 (計)	南奈良総合 医療センター	吉野病院	五條病院	対前年比較
収入	経常収益	9,741	7,762	1,211	768	10,075	8,098	1,088	889	334
	医業収益	8,075	6,326	1,146	603	8,045	6,495	909	641	△ 30
	医業外収益	1,666	1,436	65	165	2,030	1,603	179	248	364
支出	経常費用	9,814	7,766	1,128	920	10,033	8,091	1,010	932	219
	医業費用	9,591	7,543	1,128	920	9,804	7,862	1,010	932	213
	医業外費用	223	223	0	0	229	229	0	0	6
経常損益 (A)		△ 73	△ 4	83	△ 152	42	7	78	△ 43	115
特別損失 (B)		8	8	0	0	1	1	0	0	△ 7
純損益 (A - B)		△ 81	△ 12	83	△ 152	41	6	78	△ 43	122

※看護師養成事業を含む

○企業団の2019年度の純損益は、企業団発足4年目にして初めて4千1百万円の黒字となっています。2018年度と比べ1億2千2百万円改善しています。

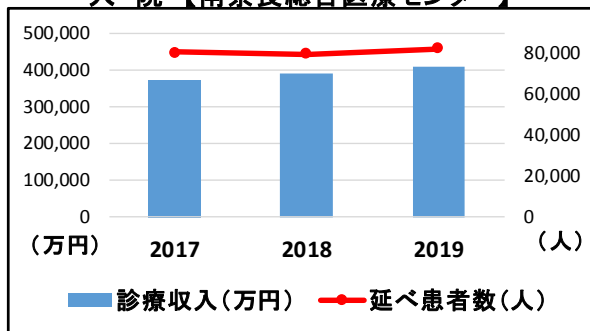
○病院別の純損益は、吉野病院が2018年度に引き続き黒字となり、南奈良総合医療センターも黒字となっています。五條病院は赤字となっていますが、1億9百万円改善しています。

○企業団全体の経常収益は前年度より増加していますが、吉野病院は、外来で投薬の院外処方を導入したことにより外来収益が前年度より減少しています。しかし、連動して経常費用における薬品費も減少しています。

○経常費用は、職員給与費の増及び建物管理の費用の増等に伴う経費の増により、企業団全体で前年度より増加しています。

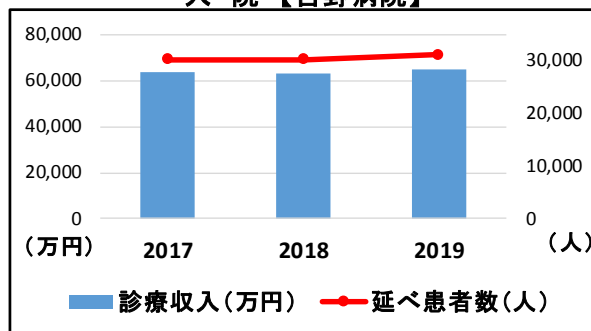
2019 (R元) 年度 稼働状況

入院【南奈良総合医療センター】



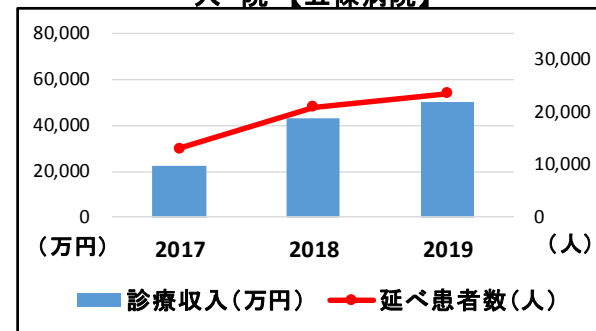
南奈良総合医療センター	2017	2018	2019
延べ患者数(人)	80,621	79,609	82,342
1日平均患者数(人)	221	218	225
病床稼働率(%)	95.2%	94.0%	97.0%
診療収入(万円)	372,314	389,949	410,664
診療単価(円)	46,182	48,983	49,873

入院【吉野病院】



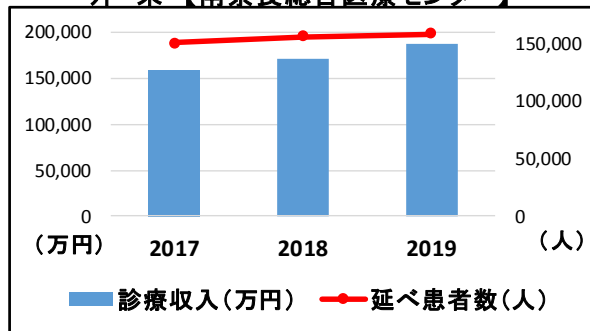
吉野病院	2017	2018	2019
延べ患者数(人)	30,266	30,216	31,124
1日平均患者数(人)	83	83	85
病床稼働率(%)	86.4%	86.2%	88.6%
診療収入(万円)	63,432	63,237	64,704
診療単価(円)	20,958	20,928	20,789

入院【五條病院】



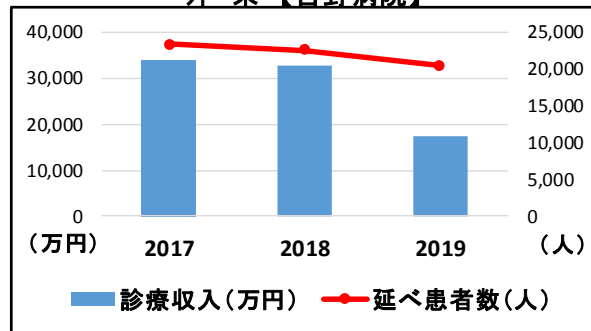
五條病院	2017	2018	2019
延べ患者数(人)	13,118	20,986	23,538
1日平均患者数(人)	36	58	64
病床稼働率(%)	79.9%	85.2%	90.6%
診療収入(万円)	22,682	42,954	50,175
診療単価(円)	17,291	20,468	21,316

外来【南奈良総合医療センター】



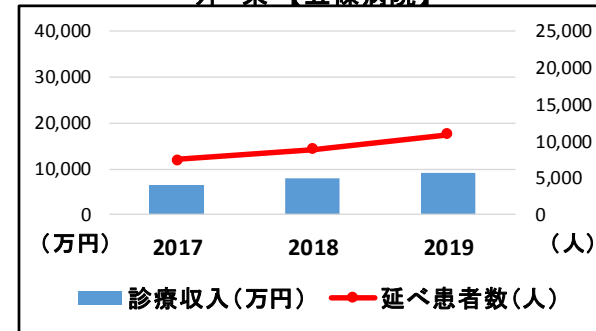
南奈良総合医療センター	2017	2018	2019
延べ患者数(人)	150,686	156,019	158,078
1日平均患者数(人)	618	639	653
診療収入(万円)	159,701	171,080	186,523
診療単価(円)	10,598	10,965	11,799

外来【吉野病院】



吉野病院	2017	2018	2019
延べ患者数(人)	23,326	22,502	20,396
1日平均患者数(人)	96	92	84
診療収入(万円)	33,846	32,868	17,458
診療単価(円)	14,510	14,607	8,560

外来【五條病院】



五條病院	2017	2018	2019
延べ患者数(人)	7,497	8,918	10,958
1日平均患者数(人)	31	37	45
診療収入(万円)	6,393	7,924	9,145
診療単価(円)	8,527	8,885	8,345

- 南奈良総合医療センターは、病床稼働率が97.0%と高稼働率を維持、1日平均外来患者数は微増となっています。
- 吉野病院は、病床稼働率が88.6%と上昇、1日平均外来患者数は微減となっています。
- 五條病院は、病床稼働率が90.6%と年々上昇、1日平均外来患者数は、皮膚科の診療開始もあり増加しています。

1 経営の安定化

① 組織マネジメント力の強化

- ◆ 毎月の収支状況の見える化と幹部職員における情報共有の徹底
- ◆ 幹部職員・中堅職員へのマネジメント研修の実施
- ◆ 経営の安定化に向け、会計アドバイザーの導入による財務業務の体制強化

③ 費用の適正化

- ◆ 診療材料等の在庫管理の強化
 - 過剰在庫、不良在庫をなくす一斉点検の実施
- ◆ 検体検査試薬の適正使用
 - 適正使用による試薬費の削減(前年度実績の5%減)
- ◆ 後発医薬品使用率の向上(90%以上)
 - 前年度実績:【南奈良】90.0%【吉野】80.2%【五條】89.4%
- ◆ 電気料金の削減
 - 電力調達の入札の実施(前年度実績額の7%減)
- ◆ 医療機器保守契約の見直し
 - 点検内容、点検回数等の精査
- ◆ こまめな節減意識の向上
 - 取組目標等を掲示し、意識を徹底
 - 未使用時における消灯や冷暖房の適正温度管理の周知
 - 会議資料をコンパクトにまとめるなど、資料枚数の削減

② 収益の確保

<南奈良総合医療センター>

- ◆ 平均在院日数の短縮(13.0日以内)
 - 緊急入院にも対応した入退院支援による早期の退院・転院調整
 - 転院相談の開始から転院までの日数の短縮
 - クリニカルパスの充実による医療の標準化
 - 地域の医療機関等との連携強化(逆紹介率 86.8% → 88%以上)
- ◆ 新入院患者の確保
 - 地域医療連携室の医療機関への訪問など前方支援の強化による紹介患者の増加(紹介患者数 614人/月 → 650人/月)
 - 医師・患者向けの広報ツールを活用した積極的な情報発信
- ◆ 在宅医療支援の強化
 - 入院時からの在宅療養への支援
 - 訪問看護ステーションの開設

<吉野・五條病院>

- ◆ 病床稼働率の向上(90%以上(療養病棟については95%以上))
 - 地域医療機関・介護施設等との連携の強化
 - 稼働率向上に向けた病床運用の検討
- ◆ 外来患者の確保
 - 外来診療の充実
 - 【吉野】 整形外科(週4日→週5日)
 - 【五條】 整形外科(週3日→週4日)、皮膚科(週1日→週2日)
- ◆ リハビリ体制の拡充
 - 作業療法開始
 - 運動器・脳血管・廃用期疾患リハビリテーションの充実

2 働き方改革の推進

- ◆ サポート体制の充実
 - 医師事務作業補助の組織化と資質の向上
- ◆ セクハラ、パワハラ等職員相談窓口「ふくがみのもり」の設置
- ◆ 患者・家族等の協力による患者等面談の勤務時間内での実施

3 専門診療の充実

<南奈良総合医療センター>

- ◆ がん診療の充実
 - 市町村実施のがん検診(肺・胃・大腸など)と連携したがん診療の充実
 - マンモグラフィ検査時の女性放射線技師の対応や画像精度の高い検査装置の導入による乳がん診療の充実
- ◆ 消化器病センターの充実
 - 急性腹症の対応
 - 胆管・膵管鏡システム等の導入による胆管結石診療の充実
- ◆ 糖尿病合併症重症化予防の実施
 - 合併症専門スタッフによるチーム医療の強化
- ◆ 心不全診療の充実
 - 「心不全シグナル」の活用による慢性心不全のマネジメント
 - 遠隔モニタリングシステムの導入による患者の負担軽減
- ◆ 在宅医療の充実
 - 重症不安定患者への訪問診療・看護の介入強化
 - 訪問看護ステーションの開設
- ◆ 高齢患者に対するフレイル(虚弱)、ロコモティブシンドローム(運動器症候群)予防の強化
 - ロコモリハビリの拡充
- ◆ 栄養サポートの充実
 - 入院患者への栄養療法と栄養指導の強化
- ◆ 医療安全の強化
 - 認知症等離棟・離院の危険のある患者の見守りが可能なシステムの導入

<吉野病院>

- ◆ 多職種による誤嚥性肺炎患者の摂食・嚥下療法の強化・充実

<五條病院>

- ◆ 高齢フレイル(虚弱)患者に対する栄養・運動指導の強化
- ◆ がんを中心とした緩和ケアの充実

4 患者サービスの充実

- ◆ 患者安心の向上
 - 安心して入院生活が送れるよう入院前の支援を緊急の入院前にも拡大
 - 血管造影検査など特殊検査を受ける入院患者に対し、放射線技師による検査手順の説明の実施
- ◆ 待ち時間・日数の短縮
 - MRI検査予約枠の効率的な運用による予約待ち日数の短縮
 - 吉野病院内科外来における新規・予約外患者の待ち時間短縮
- ◆ 提供サービスの向上
 - 吉野・五條病院における南奈良総合医療センターと同様のリハビリの提供
 - 市町村広報誌への掲載、出前講座などによる広報活動の強化
- ◆ 接遇の向上
 - 若手職員を対象とした接遇研修の実施

5 人材の育成

<医師>

- ◆ 研修医等の受入
 - 臨床研修(基幹型3名、協力型1名)、地域医療研修(17名)、専門医機構専攻医(2名)、奈良県立医科大学生クリクラ実習生(17名)

<看護師>

- ◆ クリティカルケア認定看護師教育(特定行為研修含む)の育成 1名
- ◆ 訪問看護ステーションスタッフの人材育成
 - スキルアップのための研修の実施
 - スタッフとして活躍できる看護師の養成

<その他医療者>

- ◆ 医療職学生の実習受入
 - リハビリテーション部、薬剤部のほか、放射線部も受入開始

<地域人材の育成>

- ◆ 地域の医療、介護職員への研修の実施
- ◆ 大淀高校との連携
 - インターシップの受入、大淀高校への出前授業など

<看護専門学校>

- ◆ へき地教育の充実
 - へき地での生活実態を知るためのへき地訪問など

6 地域包括ケアシステム構築に向けた医療と介護の連携 ～南和モデル～

一次支援の強化と二重・三重のサポート体制

介護予防・予防医療への支援

- ◆ 市町村の実施する一次支援(介護予防、健康づくり、地域の見守り)に対するサポート
 - 市町村等が実施する介護予防、健康づくり、地域の見守りの取組の課題を調査し、医療面でのサポート体制を検討
 - サポートに関わる人材の確保・養成
- ◆ 地域包括支援センターに対するサポート
 - 地域包括支援センターの職員を対象とする医療面での研修の実施
- ◆ 奈良県版ラヒホイタヤ養成の検討
 - 奈良県による奈良県版ラヒホイタヤ制度検討に合わせ、企業団としてOB看護師等による介護予防、予防医療への支援の取組を検討
- ◆ 市町村の介護予防事業や保健事業などの来院患者等への紹介、啓発
 - 企業団3病院での市町村事業の案内掲示やパンフレット配布
 - 企業団広報誌「はぴねすだより」での市町村事業の紹介

訪問看護・在宅医療の取組

- ◆ 訪問看護ステーションの開設
 - 今年度中に南奈良総合医療センターに訪問看護ステーションを開設
 - 訪問看護ステーションのスタッフのスキルアップのための研修の実施
 - 訪問看護ステーションのスタッフとして活躍できる看護師の養成
- ◆ 在宅医療の強化
 - 重症不安定患者への訪問診療・看護の介入強化

へき地診療所の看護力強化への支援

- へき地診療所の看護師不足に対する具体的ニーズの調査
- へき地診療所による訪問看護実施の課題の調査
- へき地医療支援看護師の派遣・採用形態の検討
- へき地診療所看護師のスキルアップ研修等の実施

地域の医療、訪問看護に対する支援

- 地域の訪問看護ステーションとの連携組織の立ち上げ
- 地域の医療、介護職員への研修、意見交換の実施
- より効果的なへき地への専門診療提供の検討